

‘元氣るんるん’は湯田小学校のほけんだよりです。

2022年(令和4年)10月17日
福山市立湯田小学校

元氣るんるん



秋の色といったら、あなたはどんな色を思い浮かべますか？

赤とんぼ、紅葉の赤だったり、高く澄みわたる空の青だったり、柿やミカン、頭を垂れる稲穂の黄だったり・・・秋は「彩りの季節」と呼んでもいいほど、色々な色にあふれた季節ですが、古代中国の五行説による暦の上の季節の色は、春は青、夏は赤(赤)、秋は白、冬は玄(黒)なのです。ちなみに、文学者で有名な北原白秋の名前の由来も五行説からきていると言われています。大気が冷え、露さえ白く光る様子を「白露」と表現しますが、日本の先人たちは、稲の収穫時期が近づいていることを、「白露」のタイミングを見逃さず、「視覚」からも季節を敏感に感じ取っていたのでしょう。

そして、白は、全ての色を邪魔せず全ての色をのせる素となる色であることから「色なき色」と考えられています。「彩りの季節」でもあり、「色なき季節」でもある秋。

広く大きな白いキャンパスのような心に、日々の出来事や思い出、夢や人生を色鮮やかに描きたいですね。



10月の健康目標 < 目を大切にしよう！ >

保健室物語

・・・ある日の保健室
Aちゃんがやって来て、
「木に頭をぶつきました。」
と言いました。
「えっ！木が見えなかったの？」
・・・ブツケタコトヨリ ミエナカツタホウガ シン・パイ
「自分でぶつけたの？」
と聞いたら、
「ううん・・・走っていてぶつけた。」
・・・コタエニナツテナインデスケドオ・・・
「だれかが押したとかないんでしょ？」

と聞いたら、
「うん」
「Aちゃん言ってもいい？それを自分でぶつけたっていうんですよ。」
「じゃあ、どんな木にぶつけたの？」
というわけで、Aちゃんと事件現場に行ってみました。
「・・・この木ね。どうしてぶつけたの？」
と聞いたら、
「ころんで・・・」
それなら納得！早く言ってよおお～



新型コロナウイルスと目の関係

皮ふからは感染しないが、目からは体の中に侵入する！



◆ウイルスが人間の体に侵入する経路として一番危ないのは手

飛沫を直接吸い込まなくても、飛沫が壁やドアノブ、手すりなどに付着して、さらにそれをさわった人の手にくっつき、その手で目や口、鼻まわりをさわること、ウイルスが体内に侵入し、増殖して発症することを「接触感染」といいます。

人は、無意識のうちに顔をさわります。豪州の研究チームが2015年、授業中の大学生26人を調べたところ、顔をさわった回数は1時間に平均23回だったと論文で発表しました。目をかいたり、鼻をさわったり、口に手をやったり。つまり、ウイルスが人間の体に侵入する経路として一番危ないのは手なので、「手洗い」が、必ずやるべき、一番大事な感染予防策なのです。

◆新型コロナウイルスは、どうして目からも感染するの？



新型コロナウイルスは口や鼻といった粘膜から感染しますが、目の粘膜(結膜)からも感染します。ウイルスは、人間のレセプターに結合して、体の中に侵入します。レセプターとは、受容体ともいい細胞表面の膜に存在し、細胞外の特異的な物質(ホルモン、神経伝達物質、ウイルスなど)と特異的に結合する物質です。レセプターがあるのは、鼻粘膜、結膜、口腔粘膜、舌などで、皮ふにはレセプターがありません。つまり、皮ふは天然のバリアーで新型コロナウイルスを手でさわっても、手自体からは感染しません。

新型コロナウイルスが付着したテーブルやイス、パソコンのキーボードなどをあなたがさわって、そのまま手で、目をこすったり、さわったりした場合に、目の粘膜(結膜)からウイルスが体の中に入る可能性があるのであります。

◆目からの感染を防ごう！

- ・ていねいな手洗い(せっけんと流水で20秒以上かけて)、あるいは消毒
- ・点眼、コンタクトレンズの付け外しのときは、特に念入り！
- ・できるだけ「顔にさわらない」洗ってない手で「目をさわらない」

